

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和7年3月21日発行

6年生が残す姿

校長 高橋 高志

3月になり、校舎内を回っていると、6年教室前の廊下に「卒業まであとわずか 小木小に残す私たちの姿」という掲示がありました。そこには、次のようなことが書いてありました。

- ・ 礼儀正しい姿
- ・ 廊下を走らないかっこいい姿
- ・ 元気よくあいさつをする、自分からあいさつをする
- ・ (階段の) 二段飛ばしをしない
- ・ 言葉づかいをよくして話す、言葉に気をつける
- ・ みんなに頼られるようにお手本になれる行動をしたい
- ・ みんなに(違う学年にも)優しく接する姿、みんなと仲が良い姿
- ・ どんな学年や人でも仲良くフレンドリーに接している姿
- ・ 周りが見えていて頼れる人、明るく頼れる人

素晴らしいと思うのは、**6年生が、卒業の日まで成長を目指し、下級生の手本としてふるまい、小木小に良い伝統を残そうとしている**ところです。大人もそうですが、マーチング引継式・6年生ありがとう会のような大きな行事が終わると、つい気が緩み、今まで守ってきたことが守れなくなりがちです。そこをもう一度具体的にめあてを立て、努力している姿は見事です。実際に最近、休み時間に6年生のまわりに下級生が集まり一緒になってさくら広場で鬼ごっこをして遊んでいる姿が見られます。また、下級生に優しく話しかけ、学校が明るく穏やかな雰囲気になっています。とてもすてきな学校を創ってくれたと思います。

そんな6年生とも、いよいよ24日の卒業式でお別れです。どのような姿を残してくれるか1~5年生と共にしっかりと目に焼き付けたいと思います。同時に、6年生への感謝の気持ちを込めて、一つ一つの所作や歌、別れの言葉を皆でがんばりたいと思います。

最後になりましたが、「挑戦」をキーワードに様々な活動に取り組んできた今年度、学校を陰に陽に支えてくださいました保護者の皆様、地域の皆様に深く感謝申し上げます。